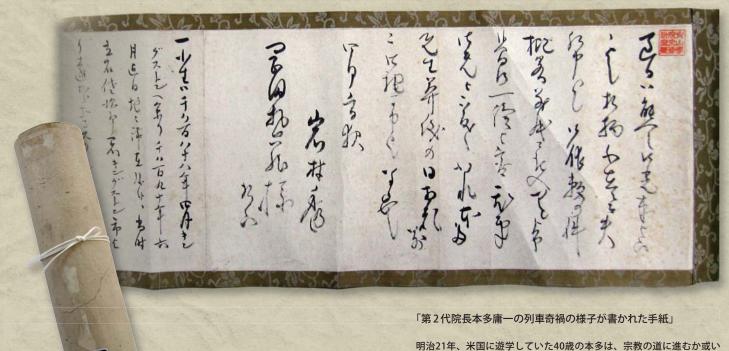
# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2011.12



明治21年、米国に遊学していた40歳の本多は、宗教の道に進むか或いは政治か、迷いの中にあった。9月の日曜日、岩村透と共に出かけた本多は、帰途危うく列車に轢かれそうになったが危機一髪難を免れ、これを機に宗教の道に進むことを決意したと言われている。この手紙は同行した岩村が、本多の葬儀に際して岡田哲蔵の求めに応じ、当時を回想して記したもの。本多庸一は、青山学院の精神的支柱であったが、この事件がなければ本多の院長は誕生しなかったかもしれない。

本多庸一とその兄弟たち 本多泰 —2 資料センター所蔵 貴重資料紹介 氣賀健生 —4 資料センター日誌抄 —6 受入れ資料 —7 利用案内 —8

# 本多庸一とその兄弟たち

# トッパン・フォームズ株式会社 東日本事業部事業戦略部 本多 泰

三年ほど前に亡くなった父の遺品を整理していると、その中に金と銀の懐中時計がありました。裏蓋を開けると、銀時計は明治37年クリスマスに青山学院教会有志から、金時計は明治40年に青山学院職員生徒から、曽祖父本多庸一が頂戴したものだと判りました。試しに発条を巻いてみると、チッチッチッと時を刻み始めたではないですか。まるで曽祖父が生を受けていた時代に誘うかのように。その時、曽祖父を中心とした幕末から明治・大正にかけての親族を探す旅がスタートしました。

この旅は、12年前に私の母元子が亡くなった際に父が手を加え作成した家系図と、岡田哲蔵著『本多庸一伝』、氣賀健生先生が纏め上げられた青山学院編『本多庸一』、親戚から譲り受けた古文書・資料・手紙、庸一召天50周年記念式時の名簿、そして父母や親戚から伝え聞いていた話、などが頼りとなりました。いざ始めてみると、「求める者には与えられる」だけではなく、さらに思いがけない展開が待受け、まるで神に導かれているような思いを抱くことさえありました。

さて、家系図をご覧ください。庸一の祖父本多 東作久貞は西舘家の娘俊子を嫁に貰いましたが、 男子が生まれなかったため分家の本多八郎左衛門 (後の東作久元)を養子に迎え、娘とも子と婚 姻させ3男4女をもうけました。その長男が庸一 (幼名徳蔵)です。その姉や弟はどのような生涯 を送ったのでしょうか、調べ辿り着くプロセスも 交えてご紹介しましょう。

# 本多家家系図(部分) <sup>みさ</sup> (∼1903) A 西舘 俊子 - 舘山 ため 本多 なつ とも子 (1822~1859) 11 本多 庸一 (1848~1912) 西舘みさ (A) 建次 (1883~1947) 10 本多 東作久元 (1823~1896) 西舘 武雄 (1857~1910) 富士見 (1905~) 花田ゑい 阿部 こと 宗定 阿部 義宗 (1886~1980) 長谷川 りつ 豊島 いろ - 久野 まさ 本多 末四郎 (1867~1922)

姉"さだ"については、庸一召天50周年記念式 時名簿を頼りに新住居表示を割出し、家系図に あるその子孫全てに手紙を出しました。しかし 無情にも全てが戻ってきてしまいました。そんな 時、何気なくインターネットで"さだ"の夫"楠 美晩翠"を検索すると楠美家の家系図に行き当た りました。そしてこの楠美家がもともと津軽藩士 で藩主の命により、平家物語の一部始終に節を付 け平家琵琶の伴奏で語る「平家詞曲」を伝承して きた家であることが分かりました。さらに一族で その歴史を解明され、また伝承を担っている方々 にめぐり合うことができ、一族にまつわる著書も 頂きました。この本の中で楠美晩翠は、明治元年 (1868) 二月に京都留守居役を命ぜられ赴任して います。次に述べる"西舘平馬(後の弧清)"と同 時期に同じ京都で藩務に携わっていたことになり ます。因みに楠美晩翠の子、恩三郎は音楽家とな り青山学院初期の校歌作曲に関っています。

この西舘平馬(以下弧清)は庸一の祖母俊子の 甥に当たり、祖父東作の薫陶を受けた人物で、文 久3年(1863)御用人として京都に赴任してい ます。彼は慶応4年(1868)の鳥羽伏見の戦いを 見るにつけ、時代の主導権を握っているのは新政 府軍だと確信しました。しかし国元では佐幕か勤 皇かで分かれていた藩論が、佐幕に傾き奥羽越列 藩同盟(秋田藩は加盟せず)に加わることになっ ていました。危機感を覚えた彼は、津軽家の出自 とする近衛家に指示を仰ぎ、結果近衛家から託さ

> れた朝廷の令書を携え、危険を冒いにない。 を関するともに中央の形勢を説割当上でです。 を出すとともに中央の形勢を説割当上で、 を当皇に大きく舵を切らせると、を明を切らは藩が奥羽越列藩同盟に加わの動をとまずるでは、 を受け、動皇に大き連携することを対でないたたきはでいたのです。ところが庄内藩とはでいたのです。ところが庄内では、 を関退し動皇に転じていたため、庸一







西舘武雄 (東奥義塾所蔵)

らは庄内藩への信義に反すると大いに憤慨し、 脱藩・切腹を決意するに至りました。後にその清 節さゆえに脱藩の罪は許され、それを機に徳蔵か ら庸一に改名したのです。この時期、弧清と庸一 は姻戚関係にありながら全く正反対の役回りを演 じていたことになりますが、共通して言えるのは 主君への忠義だったのでしょう。その後両者の間 が疎遠になったかと言えばむしろ逆で、弧清は20 才ほど違う庸一の力量を認め、明治3年藩命によ る庸一の横浜留学を支持し、明治7年には藩校稽 古館の後身東奥義塾の塾頭に庸一を推薦していま す。また、庸一は明治21年に9歳年下の弟武雄を 弧清の養子に出しています。

ではその武雄はどのような人物だったのでしょ うか。庸一の影響から東奥義塾に学び、明治8年 に教師であり宣教師でもあったジョン・イングか ら次弟斎とともに受洗しています。武雄17歳、斎 23歳、弘前で最初の受洗者でした。その後青山学 院に進み、以後教育者の道を歩みます。明治26年 に県立八戸中学(現八戸高校)初代校長に就任、 明治29年には東奥義塾に庸一辞任後持上りで塾長 に就任、その後、島根県立第二尋常中学(現浜田 高校)、福井県福井中学(現藤島高校)、秋田県 大館中学(現大館鳳鳴高校)、奈良県文武館(現 十津川高校)の校長を歴任しています。しかしい ずれも在任期間が一年前後と短く、東奥義塾では 改革を試みるも受け入れられず半年で塾長を辞任 しています。「剛直で怖いものなしの豪傑であっ た」と言われ、庸一の調和を重んじる性格とは だいぶ違っていたようです。この武雄には妻"み さ"との間に建次という男子がおり、建次は6歳 のころから十数年間青山の庸一宅に寄宿していた ことを『本多庸一伝』から知りましたが、その子 孫の消息についてはなかなか掴むことができない でおりました。

そんな折、武雄について調べるために東奥義 塾の図書館を訪ねたところ、思いがけず弧清以降 の西舘家の様々な資料を目にすることができまし

た。それは建次が戦前に妻を亡くし、戦中には二 人の息子も亡くし、本人も昭和22年に杉並の知り 合いに身を寄せていた所で亡くなり、その際お世 話くださった方が西舘家の途絶を案じ、遺品を東 奥義塾に寄託されたおかげでした。そして、武雄 が晩年後妻との間にもうけた男子に"富士見"が いることを知りました。

教育界に身を置いた武雄に対し、同時にイング から受洗した斎はどうだったのでしょうか。その 後、弘前公会の設立に参画、明治10年の西南の役 に際し旧藩主の巡査徴募に応じた後、弘前市内や 近隣地域で積極的に伝道しています。青森県で最 初の聖書販売人と言われ、その販売の傍らで書 いた『伝道日記』が庸一の作と誤り伝えられてい る、とも言われています。明治13年に庸一から青 森に伝道のため遣わされ、それが青森教会の始ま りとされています。その後、函館、常総、築地、 四谷、白河、三田、神奈川、高遠、大久保で伝道 し、昭和2年に朝鮮に渡り京城教会に所属し、昭 和20年に94歳の生涯を閉じました。

また、父東作久元と後妻"いろ"との間には3 女1男がおりました。庸一にとって異母兄弟にな りますが、妹のひとり"こと"は阿部家に嫁ぎ、 その次男として生まれたのが青山学院六代目院長 阿部義宗氏です。弟の末四郎は慶応三年(1867) に生まれ、東奥義塾から青森師範を卒業し、青 森県内いくつかの尋常高等小学校で教壇に立っ た後、大正三年に浅草教会に付属する美以美尋常 高等小学校の校長に就任していることが分かって います。この情報もインターネットに負うところ で、浅草教会のホームページの120年史に末四郎 の名を見つけたのがきっかけで、教会の方から東 京都公文書館に残された校長採用許可願のコピー を戴き、その中の履歴書から知ることとなりまし た。

このように調べてみると庸一の兄弟は、教育界 もしくはキリスト教の世界に生きてきており、庸 一の影響を色濃く感じます。では伯・叔父や伯・ 叔母の庸一への影響はどうだったのか、その時代 の中でどのような人生を歩んだのか非常に興味の 湧くところで、これからの探訪の旅となります。

庸一は明治45年3月長崎で客死し、63歳の生涯 を閉じました。来年で丁度100年になります。

※本多泰氏は本多庸一の曾孫にあたる方です。 2012年3月が本多庸一召天100周年にあたることを記念して寄 稿していただきました。

資料センター所蔵

# 1941年 Dr. Diffendorfer 日本訪問報告書

青山学院大学名誉教授 氣賀健生

今回の貴重文献・史料紹介は、ディッフェンドルファーの日本訪問報告書をとりあげます。 Ralph E. Diffendorferはメソジスト・ミッションボードの主事で、第二次世界大戦後、北米教会連盟協議会の席上"日本にキリスト教大学を"という感動的呼びかけを行って、国際基督教大学(ICU)設立にトロイヤー博士と共に深く関わった人物です。(ICUには彼を記念して通称D館とよばれる学生会館があります)

さて、ここにとりあげるのは、Church and Mission in Japan, January 1941と表題された報告 書です。この年の12月8日には日米戦争が始った 時ですから、日本国内では大政翼賛会のもとに 国家総動員法が敷かれ、新体制のかけ声と共に、 着々と日米戦争へと臨戦体制の色が濃厚になって いたまさにその年の1月に、彼は日本視察に派遣 されたのでした。この時期に日本を短期間視察し て、然も外国人の眼で、よくもこれ程綿密かつ適 切に問題点を捉えたものと思われます。当然これ には日本側の情報提供者があったと考えられます が、それが誰であったかは推測の域を出ません。 またこの報告書はConfidential—not to be guoted (秘密書類-引用不可)となっていますが、現在 既に50年以上経過しているので公開して差支えな い筈です。この報告書の入手経路ですが、故クラ ンメル宣教師から筆者が直接いただき、資料セン ターに収めたもので、A4サイズ用紙に25枚ビッ シリとタイプされています。目次の最後に "p.s. Value of Visit" (あとがき・訪問の成果) とあり ますが、その部分のページが失われているので、 ディッフェンドルファーの本心ないし本音が窺わ れる部分が欠けているのが大変残念です。ではそ の報告書――。

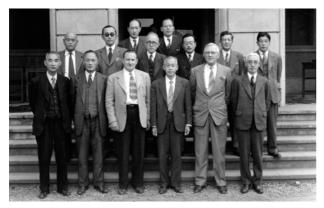
ディッフェンドルファーは、今日の日本の現 状理解の留意点として「天皇及び天皇制とイエ (家)」の指摘から報告書を始めます。天皇と天皇 制のプリンシプルが日本人の人生の中心であり、 天皇は不可侵且つ永遠に支配する神聖な存在であ る、またイエ(家)は家庭(ファミリー)より深 い意味をもつ日本語で、歴史的・精神的に日本人



ディッフェンドルファー、トロイヤー来校 1949年(昭和24)5月27日

の人生の中心であって、天皇こそが日本帝国とい う「イエ」の中核である、というのが彼の理解で す。そしてその集大成としての神道の国家体制及 び国民生活への決定的影響、神社参拝への関心と 強制的煽動を彼は指摘しています。この神社参拝 の強制状況は、キリスト教にも少なからず影響を 与えているが、これに対するキリスト教側の意見 として、日本基督教団議長の富田氏の考えを紹介 して次のように述べています。即ち、神社参拝は 宗教的行為ではなく、愛国的国民心情に基づく行 為であるから、これは信仰の問題ではなく、全体 主義国家機関の問題であって、教会が国家体制に どう対応するかということである、と。そして牧 師や代表的信徒の中にも、神社神道は国家的なも ので真の宗教ではないから、キリスト教も神道と 手をとり合って行くことができる、それでキリス ト教も最近の「宗教団体法」のもとでやってゆけ る、と考えている者が多い、とディッフェンドル ファーは当時の多くの日本人キリスト者の日本的 心理をよく洞察しています。更に彼の炯眼は、天 皇を国家そのものとする日本的全体主義の統一原 理を"新体制"と呼び、「国民精神総動員」とい う殆ど狂気染みたスローガンのもとに、今やあら ゆる市民的自由が奪われ、議会は"翼賛議会"と なり、「隣組制度」が全国民を統制下に置き、学 校や教会さえも統制のもとにおかれるようになっ てきている、と観察しています。

こうした風潮はまた日本と枢軸同盟を結んだド



ディッフェンドルファー、トロイヤー来校 1949年(昭和24) 5月27日 前列右から二人目ディッフェンドルファー

イツの影響によっても拍車がかけられている、と 彼は見ています。ドイツの青年指導者シュルツが 現在日本に文部省顧問として来ているし、軍隊の 中では極右のナチ・グループが勢力を伸ばしてい て、憲兵や私服警察が至る所でゲシュタポ(国家 秘密警察)まがいの行動を展開している、と彼は 観察しています。

こうした雲行きの中で、アメリカとの戦争はもはや避けられない、問題の平和的解決は絶望的という感情が拡まって、心配は台所、お店、タクシーの中、教師、牧師、医者、ビジネスマン、自由人、婦人達にまで及び、1941年1月末には既に一般化している、というのが彼の印象分析です。

さて、ディッフェンドルファー報告書は、日 本キリスト教会の"合同問題"についても多くの ページを費しています。これは彼が当時の日本の 宗教事情について、国家方針としての全体主義的 圧力をよく見極めていることを物語っているとこ ろです。文部省側での"教派の合同・合併"への 圧力は強く、その「国家をあげての計画」の強制 力のもとでのキリスト教会側の"合同教会"への 困難な取組みが詳しく紹介されています。新合同 教会にとっての難問は教義の問題でしたが、文部 省は、教会が自らの教義を定める自由はこれを保 証するが「新体制と矛盾することなきように」と 厳重注意を促しているとみて、ディッフェンドル ファーは教会が直面している状況を"台風"と評 しています。そして、小役人や地方官吏による現 実の敵意ある行動、それは局地的に見えるかも知 れないが、実はもっと一般的かつ強力な圧力が高 所からかけられているのだということを見透して います。

そして一般の信徒は"合同"に対してどう思っているか。彼は"合同教会"の提案が、どの程度一般の日本人基督者の要求を代弁しているか、

それは興味ある問題である、と要点をついています。また彼は多くの日本人基督者にとって、彼らが或る特定の教派に属しているのは偶然の結果に過ぎない、即ち彼らは自分で教派を選んだのではなく、たまたま或るミッションにかかわり合ったのであって、他の教派の教義との比較をしたこともないし、教派をえらんだこともない。そういう機会は全くなかったし、単純にそれぞれの教派で説く"真実"を教えられたのである、という日本のキリスト教信徒の特徴を実に美事に見抜いています。

ディッフェンドルファー報告書は、最後に日米 関係の悪化について憂いを述べ、宣教師たちの去 就について論じています。状況が危機的になるに つれて日本人の普段の礼儀や"ひかえめ"な態度 がなくなっていること、信頼する日本の友人が宣 教師に今はもう帰国の時だと警告したことをあげ て、"まさか"の場合を考えるべき時だと論じて います。

彼はまたこの危機的状況の中でなお日本のキリスト教の将来に希望をもち、日本の教会では善意の代表団をアメリカに送りたい希望がある(筆者注・これはこの年阿部義宗を団長とする反戦使節のアメリカ訪問によって実現した)として、"何が起ろうとも"他の国のキリスト者との友情と善意を保ちたいという大きな証拠を私は見ている、と断言しています。

そしてこの増大する危機を前にしてアメリカのクリスチャンは何が出来るだろうかと自問し、日本を理解するために可能なことは何でもなすべきであるとして、移民排斥法の撤回を求め、太平洋の平和のために政府を説得することを提案しています。

最後に彼は、日本では土着固有の日本的キリスト教が今や芽生えて来ている、そして"キリスト教の日本化"は他の国にも影響を与えるだろうと述べてこの報告書を終えています。そして冒頭にも書いたように、このあと"訪問の成果"という彼の評価がある筈ですが、そのページが失なわれているので彼の本心がわからないのが残念です。

ちなみに、ディッフェンドルファーはトロイヤーと共に1949(昭和24)年5月~6月に、青山学院を視察しています。詳細は同年6月21日付青山学院理事会記録にありますがそれによれば、両氏は青山キャンパス及び横須賀分校を視察し、同分校の工学部を関東学院に譲渡することの意見を表明され、それに基づき青山学院は「地理的経済的見地」より横須賀分校工学部を手離すとの結論を出しています。

# Aoyama Gakuin Archives Letter

# 2011 年度前期





(抄録)



# 4月

# 閲覧 (青山)

- ・大学名誉教授、校史調査のため学院資料 (3回)。
- · 教員代理、『青山学報』。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。
- ・大学図書館参考係員、業務のため『青山学報』。
- ・本学学生、美術品調査のため『青山学報』、『青山学院120年』。
- ・校友、伝記調査のため『青山学院大学五十年史』、『剣道塾 長一笹森順造と東奥義塾ー』。
- ・他大学教員、所蔵調査・研究のため『Biblia Latina』。 レファレンス

5件(戦前の『青山学報』原本の所蔵の有無 ほか)。 来室(青山)

- ・教員ほか、明治期基督教図書データベース作成作業。
- ・緑岡小学校卒業生よりアルバム拝借。必要な写真をスキャンして返却。

#### 来室 (相模原)

・故寺崎武男画伯ご子息とカメラマン、相模原キャンパス所 在の寺崎画伯絵画3点を写真撮影。

#### 業務

- ・専門業者へ、アルバム1冊、震災で破損した図書3冊、卒業 証書1点を修復依頼。
- ・大学教員より、学生紛争資料の所蔵調査依頼。
- ・本部広報部より、WEB版『三粒の種』の原稿校正依頼。
- ・大学庶務部より、ゴールデンジュビリー・シルバージュビ リー用原稿校正、画像提供依頼。
- · 宗教センターより、古いリードオルガンを資料センターに 移管。

# 5月

# 閲覧 (青山)

- ・大学名誉教授、原稿執筆のため学院資料(2回)。
- ・大学教員、論文執筆のため『英文メソジスト監督教会婦人 年会記録』『青山学報』。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (4回)。
- ・校友、同窓会報用資料調査のため『青山学報』。

# 閲覧 (相模原)

- ・大学名誉教授、伝記調査のため『青山学報』、個人伝記資料。
- ・大学名誉教授、伝記調査のため本多庸一関係資料ほか。
- ・本学学生、卒論作成のため大学紛争資料。

### レファレンス

8件(青山学報に掲載された石坂正信先生送別会に写っている人の名前の特定 ほか)。

# 来室 (相模原)

・専門業者、巻子用保存箱作成のため軸物の採寸。

### 業務

- ・他大学より、文献複写申込1件。
- ・本部広報部より学報原稿内容確認依頼。
- ・学院主催企画 本多庸一先生召天100周年記念プロジェクト会 議に事務長出席(5月・9月各1回)
- ・学院主催企画 改訂版『本多庸一』編集打ち合わせに事務長出

席(5月~9月計3回)。

- ・大学史資料協議会総会に参加(於:女子美術大学)。
- ・資料センター運営委員会開催。

# 6月

#### 閲覧(青山)

- ・大学名誉教授、校史調査のため学院資料。
- ・大学教員、論文作成のため『英文メソジスト教会婦人年会 記録』(2回)。
- ・元職員、校史調査のため学院資料(4回)。
- ・校友、同窓会報掲載のためシオン寮写真資料。
- ・他大学教員、論文作成のためカナダメソジスト教会関係資料。
- ・田園都筑教会員18人、明治期基督教関係資料等を見学。 閲覧(相模原)

# ・大学教員、論文作成のため青山女学院関係資料(2回)。

- ・大学教員、青山女学院時代の教具(ジオラマ)見学。
- ・大学職員、業務のため『青山学報』等。

# レファレンス

7件(ラグビー部創部年の確認 ほか)。

#### 出張

・一粒社ヴォーリズ建築事務所(大阪)へ、プラット記念講 堂ほか学院関係建築設計図面108枚の確認。画像スキャニン グを依頼。

# 業務

- 事務長に『青山学報』編集委員委嘱、編集委員会に出席。
- ・相模原宗教センターより、「週報」ドーラ・E・スクーンメーカーの紹介記事校正依頼。
- ・本部広報部より、『あなたと青山学院』緑岡幼稚園記事校正 依頼。
- ・本部広報部より、本多庸一写真データ提供依頼。
- ・校友へ、調査依頼(『青山学報』掲載静岡支部総会の報告 中、稲名支部長が本多庸一の書を披露した記事の詳細につ いて)

# 7月

震災の影響で、省電力のため7月11日から9月16日まで夏期休 業期間体制

# 閲覧 (青山)

- ・大学教員、論文作成のため『The Christian Movement in Japan』(2回)。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。
- ・校友・他大学教員、他校史編集のため『護教』『Japan Evangelist』ほか(2回)。

# レファレンス

8件(間島記念館の総工費・完成年月について ほか)。 来室(青山)

- ·大学名誉教授、伝記『本多庸一』改訂作業。
- ・教員ほか、明治期基督教図書データベース作成作業。

### 咨料提出

・横浜共立学園創立140年記念の写真集に掲載のため、「聖書改 訳委員」写真、『よろこばしきおとづれ』、『福音新報』の画像。

### 業務

- ・大学教員へ、本多庸一書簡の解読依頼。
- ・本部総務部より、資料センター所蔵の本多庸一胸像石膏型 の写真撮影、大きさ計測依頼。
- ・本部広報部へ『AGUニューズ』『あなたと青山学院』のため の資料提供、原稿校正、典拠調査。
- ・大学外国語ラボラトリー事務室より、古いタイプライター 等器材の所蔵確認依頼。

- ・大学広報入試センターより、『螢雪時代』掲載の間島記念 館・校章等学院紹介記事校正依頼。
- · 『Aoyama Gakuin Archives Letter』第 4 号発行。

# 8月

#### 閲覧 (青山)

- ・大学名誉教授、校史調査のため『青山学院広報』。
- ・大学教員、校史調査のため『Japan Evangelist』ほか(2回)。
- ・校友・大学同窓祭スタッフ、「青山学院の歌」CD(貸出)。
- ・他大学名誉教授、自校史調査のため『青山女学院史』等。
- ・校友・他大学職員、『国の光』、『護教』。
- 教会牧師、研究のため『日本メソジスト教会(東部)年会 記録』1908~1940年。
- ・他大学大学院生、論文作成のため南メソジスト教会関係資料等。
- ・一般の方、『しなやかに夢を生きる』。

# 閲覧 (相模原)

- ・大学教員、校史調査のため学院資料。
- ・一般の方、研究のため校友鈴木正久の論文。

#### レファレンス

5件(学院と大学の創立年のカウントの仕方について ほか)。 来室 (青山)

- ・教員ほか、明治期基督教図書データベース作成作業。
- ・本部広報部より、元教員安藤鏗子の写真提供依頼。5カット

#### 提供。

・一般の方より、津田仙調査のため『青山学院100年』を入手 希望あり、送付。

#### 9月

#### 閲覧(青山)

- ・元職員、校史調査のため学院資料(4回)。
- ・他大学教員、伝記調査のため『護教』、『十字架之道』。
- ・他大学職員、書誌調査のため明治期基督教図書。
- ・他大学大学院生、論文作成のため『Heathen Woman's Friend』1870~1910年代。

#### 閲覧 (相模原)

- ・大学教員、校史調査のため本多庸一関係資料 (3回)。
- ・本学学生、授業のため一般分類登録図書。
- ・他大学教員、伝記調査のため小畑久五郎関係資料 (2回)。
- ・他大学教員、論文作成のため安藤太郎関係文書(2回)。

# レファレンス

7件 (大学 2 号館前の池にある石玉回転噴水の来歴 ほか)。 業務

- ・大学教員より、氣賀健生著『本多庸一』の送付依頼あり。 (宗教委員を中心に学内で配布するため。80冊送付。)
- ・本部広報部より、『あなたと青山学院』掲載のWEB版『三 粒の種』紹介記事の校正依頼。
- ・他大学より、文献複写申込1件
- ・清家家所蔵の本多庸一の書を借用(2012年5月まで)

# 

(学内部署からの資料は除く

# 寄贈(抜粋)

- ●白戸道子様より、飯久保冬葬儀執行順序 1968年11月、青山女学院校友会総会写真2種 1934年6月、ほか
- ●岸田達也様より、自著『紅もゆる丘の花 一戦前期昭和の青春断章』 2011年3月
- ●横浜指路教会様より、『復刻改訂版 毛利官治追憶録』横 浜指路教会教会史編纂委員会編 2010年12月、ほか
- ●日本ナザレン教団本部様より、『日本ナザレン教団百年史 九十年史続編』 2011年3月
- ●女子短期大学同窓会様より、『青山学院女子短期大学同窓会会報』 第37号 2011年4月
- ●花村紀彦様より、写真「青山学院校友会静岡支部総会」 (1967年以降)、写真[日本メソヂスト静岡教会長老]年不明明ほか
- ●理工会様より、『青山学院理工会会誌』 第58号 2011年4月
- ●滝澤民夫様より、自著「『基督教青年』と関西キリスト教青年会運動」 同志社大学同志社談叢31号(抜刷) 2011年3月、ほか
- ●寺崎裕則様より、自著「特集:昭和初期の日伊交流 寺崎 武男と1930年『羅馬開催日本美術展覧会』の軌跡」(『イタ リア図書』所収) 2011年4月
- ●雨宮剛様より、『クワイ河に虹をかけた男 一元陸軍通訳永 瀬隆の戦後』 満田康弘著 2011年2月
- ●原尤子様より、大学女子寮クリスマス祝会次第 1960~ 1962年
- ●栁田法導様より、『東光山 英勝寺 -英勝寺の山門復興と 歴史』 英勝寺山門復興事業事務局編集 2011年4月
- ●吉田恵子様より、絵画「かたくり」(額縁付)古田十郎画

1983年(次頁寄贈写真①)、東日本大震災応援缶バッチ(大 学ラグビー部作製)2011年5月(次頁寄贈写真②)、中等部 ペナント 大(化繊・綿)・小(化繊、1953) ほか

- ●チェン・ポール様より、『少年-ある自伝の試み』大岡昇平著 1975年11月
- ●宇賀章様より、『すめらみたみ』[修身教科書 青山学院緑岡 初等学校編 戦前期](次頁寄贈写真③) ほか
- ●柏崎節子様より、自著『The Life of a Woman Missionary From Miss Alice Otto's Album』 2011年6月
- ●酒井嘉子様より、「外国(海外)伝道を志したアメリカ人女性 宣教師たち」酒井嘉子著 {『函館私学研究紀要中学・高校 編』第37号(2008年3月)抜刷} ほか
- ●東京基督教大学国際宣教センター様より、『千葉県キリスト 教史研究』 1~3号 2008~2011年
- ●中積治子様より、『時代を拓いた女たち 第Ⅱ集 かなが わの111人』江刺昭子·史の会編著 2011年6月
- ●高等部同窓会様より、『青山学院高等部同窓会報』Vol.61 2011年7月
- ●横溝達夫様より、『岩の会だより』No.20 青山学院大学第 2部宗教部岩の会 2011年6月
- ●的野郁子様より、大学女子寮写真データCD「クリスマス集 会(1960年~62年)、謝恩会、寮全景他」
- ●榑松かほる様より、『清水安三・郁子研究』 創刊号 (2009)〜第3号 (2011) 桜美林大学清水安三記念プロジェクト編
- ●比留間柏子様より、『続 表参道が燃えた日 -山の手大空 襲の体験記-』「表参道が燃えた日」編集委員会編 2011 年6月
- ●大学同窓祭事務局様より、『青学応援ソング 夢のかなた へ』Ayamai作詞作曲 2009年9月、第18回青山学院大学同 窓祭プログラム 2011年9月
- ●羽生基雄様より、ジョン・モス宣教師(次頁寄贈写真④) 撮影の青山学院構内写真ほか計6枚 1948年、羽生家家族写 真2枚 [緑岡初等学校児童伊豆へ疎開の日撮影(次頁寄贈写 真⑤)、大橋練兵場近くの自宅にて撮影]
- ●氣賀健生様より、東巴文字の書
- ●伊藤瓔子様より、軸1点 {加藤楸邨から学生にあてた見舞状

(寄贈写真⑥)、川瀬一馬の短歌・手紙5点を一緒に軸装したもの} いずれも1961年

- ●青心会様より、『青心会会報』1号(1969年)~49号(2004年)欠:15号 青山学院大学文学部教育学科研究室青心会会報編集部発行
- ●弘前学院大学様より、『本多庸一資料 岡田哲蔵旧蔵』1~ 3 弘前学院出版会編 2011年9月
- ●永井理恵子様より、自著『近代日本キリスト教主義 幼稚園の保育と園舎 遺愛幼稚園における幼児教育の展開』 2011年9月
- ●古賀節子様より、Barbara M. BaileyとGeneva M. Morris (宣教師) から寄贈者にあてた手紙 1967年8月、ほか
- ●他大学・学校の年史・紀要類多数

# 購入

- ●『基督教家庭講演』(第2輯)塚本はま子、長尾半平述、基督教傳道義會、大正7年
- ●『家事教本 全』塚本はま子著、金港堂書籍株式会社、明 治33年
- ●『日曜學校』4月號 192号 亀徳一男編、日本日曜学校協会、昭和5年
- ●『基督教青年』復刻版 1~10号合冊(1889~1890年発行) 滝澤民夫注釈、不二出版、平成22年
- ●『象牙彫刻法』乾・坤(2分冊) 相馬邦之助著、武田傳 右衛門、明治23年(購入写真①)
- ●『心霊万能論』高橋五郎著、前川文栄閣、明治43年
- ●『日露時局の切迫に対する日本正教会の態度に付て我が全国のハリステアニンに論告』水島行楊編、ハリストス正教会事務所、明治37年(購入写真②)



寄贈写真① かたくり 古田十郎画



寄贈写真② 大学ラグビー部作製 震災応援缶バッチ



寄贈写真③『すめらみたみ』



寄贈写真④ モス宣教師



寄贈写真⑤ 緑岡初等学校児童疎開出発前



購入写真②



寄贈写真⑥ 加藤楸邨書簡



購入写真① 『象牙彫刻法』(本文)

# 資料提供のお願い

青山学院第2代院長本多属一(1890~1907年在任)は、明治45(1912)年3月26日に、日本メソジスト教会の監督として長崎に客死されました。 来る2012年は、召天100周年にあたります。このことを覚えて青山学院では、5月19日(土)に本多庸一先生召天100周年記念行事(礼拝・シンポジウム・感謝会)を開催の予定です。

関連事業の一つとして、氣賀健生著『本多庸一』の改定版を来年秋の刊行を目指して、現在、氣賀健生先生を中心として作業を進めています。つきましては本多先生に関する写真、手紙、書、まつわる記念品などをお持ちの方、あるいはこれらの情報をお持ちの方は資料センターまでご連絡ください。新しく発見されたものについてはできるだけ改訂版に掲載して本多先生の事績を顕彰する一端としたいと思います。記念礼拝当日に展示することも検討しております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

# 青山学院資料センター利用案内

資料センターは、青山キャンパス再開発計画に伴い、2005年11月17日に間島記念館から下記2箇所に臨時移転いたしました。移転期間中、 展示はお休みいたします。閲覧希望の場合は、余裕を持って連絡してください。

★資料の閲覧曜日、時間

特定の研究目的を持って閲覧を希望される方々に青山学院史、 明治期キリスト教関係資料などを公開。

・相模原キャンパス N棟N403 (昼休み 11時30分~12時30分) 月曜日~金曜日 9時30分~17時

・青山キャンパス(完全予約制) (昼休み 11時30分〜12時30分) 火曜日 9時30分〜17時

土曜日 9時30分~13時

★休室日

日曜日・国民の祝日・年末年始(12月23日~1月5日)・その他青山学院が定める休日

★お問い合わせ・連絡先(2キャンパス共通) TEL: 03-3409-6742 FAX: 03-3409-8134 (相模原)〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1 (青山)〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

★URL http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/

# 資料センター運営委員

(任期2011年4月1日~2013年3月31日)

学院宗教部長(職務上) (2011年10月31日まで) 学院宗教部長(職務上) 嶋田 順好 大学図書館長(職務上) 三村 優美子

大学 教員1名 清水 信行 女子短期大学 教員1名 八耳 俊文 高中部(高) 教員1名 佐藤 隆一 小田井 孝 高中部(中) 教員1名 初等部 教員1名 佐々木 淳 川島 祥子 幼稚園 教員1名 総局長 (職務上) 岸 資料センター事務長(職務上) 傳農 和子

# 資料センタースタッフ人数

専任 2人 派遣 2人 パートタイム 1人

# **Aoyama Gakuin Archives Letter**

青山学院資料センターだより 5号

2011年12月15日 青山学院資料センター編・発行



印刷:三美印刷(株) 1.500部